

『みんなの笑顔のために』

8月から、新しく先生が着任されました。

本年度4月から特別支援学級に配置予定の加配教員が未配置（欠員）となっていました。このたび欠員補助の臨時採用講師として狩野克哉（かの かつや）先生が8月15日付けで着任されました。にじいろ1組を担当されます。どうぞよろしくお願いします。

<狩野先生よりごあいさつ>

このたび、臨時採用として本校に勤務することになりました狩野といいます。和水町とは、以前菊水東小にお世話になったことがあり、大変親しみやすくなつかしく思っています。

早く子供たちと仲良くなって、子供たちのために微力ながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

玉東町在住で、保健体育がご専門のベテランの先生です。力強いメンバーを新たにお迎えし、チーム菊水で夏休み明けも頑張ります！

本はわたしたちにいろいろなことを教えてくれます。

夏休み、ゆっくり読書を楽しんだ子供たちもいたと思います。私たちは、読書によっていろいろな知識や考え方などを身につけることができます。以前、「日本村100人の仲間たち 吉田浩 著 日本文芸社」という統計データをもとに日本の姿を紹介してある本を読んだことがあります。その内容を少し紹介します。



日本村の人たちはラーメンが大好きです。9日に1食は必ず食べています。行列のできる店のラーメンは、100人中100人がとてもおいしいと思います。村人は、なぜ、行列が好きなのでしょう？ 村人は、多数決のときに自信がないと、まわりを見渡して、「多数」の側につきたがります。「少数」だと、不安でしょうがないのです。

中学生のうち、6割が、友だちといっしょにトイレへ行き、4割が、はやっているものを手に入れたがり、2割が、イヤなことでも友だちに誘われれば、やってしまうのです。なぜって、仲間と違うことをすると、「イジメ」られるからです。

親はこどもに、「みんなと仲よく遊びなさい」と教えます。でも、勉強だけは、「〇〇ちゃんには、絶対に負けちゃダメよ」と言います。

すると、子どもも、だんだん、「本音と建前」の使いわけができるようになってきます。

さまざまな統計データから日本で生活している私たちの意識をわかりやすく分析してありました。文章を読みながらドキッとさせられるようなところもありました。みなさんはどう感じられますか。

日本村は、世界有数のお金持ちですから、当然、子どももお金持ちです。1年間に、おこずかいやお年玉を、7万7000円もらいます。ところが、外には貧しい村もたくさんあって、エチオピア村では、大人が1年間に稼ぐお金が、たったの、1万2000円なのです。

こんなに恵まれているのに、日本村では年々、若い人たちの自殺が急増しています。世界で、7番目に自殺の多い村になってしまいました。自殺が一番少ない村は北極にあるイヌイト村でした。今までは、本当に0人だったのに、文明が入ってきたとたん、自殺する人が出てきたのです。

「豊かになる」ということは、いったい、どういうことなのでしょう。お金や便利な機械は、人間を幸せにしてくれるのではないのでしょうか？ たくさんのお金やモノがある国なのに、なぜ、おおぜいの村人たちが、不幸になってしまうのでしょうか？